

図書館への声

学生アルバイトから見た図書館

利用される皆さんの姿を見て、

私自身が勇気づけられた 人文学部 4年 岸部 勇樹



私は、3年前から文京地区の附属図書館でアルバイトをしています。私の仕事内容を簡単に説明しますと、平日の週2回、16時30分から閉館の22時まで、本の貸出や返却などのカウンター業務や、書庫内資料の出納、閉館前の後片付けなどです。これを読んでいる皆さんの中で、「こんなに夜遅くまで開館していても、利用する人っているの?」とお思いになる方もいらっしゃるかもしれません。現状は、かなりの数の学生が閉館ギリギリまで利用されています。レポートや提出物などの準備や、公務員試験や教員採用試験のために勉強している学生がほとんどです。

自分と同じ大学生に接する仕事といえば、おそらく、この仕事以上の仕事はないと思っています。今回は、私が普段仕事の中に図書館内で接する学生の中で、ほぼ毎日図書館を利用している学生を紹介します。私と同じ人文学部に所属する4年生のY君は、教員採用試験や卒論のために、朝早くから閉館ギリギリまで図書館を利用しています。Y君は図書館で勤務中の私を見ると、手を上げて挨拶をしてくれて、「岸ちゃん（Y君は私のことをこう呼ぶ）、夜遅くまでお疲れ〜」や「頑張って!岸ちゃん!」と声をかけてくれます。勤務中の私にとって、非常に嬉しい瞬間です。Y君は私の学ぶ経済学とは畑違いの国際関係のゼミナールに所属しています。Y君はいつも図書館にパソコンを持参し、難しい国際問題の本を読み、大事なところをパソコンに打ち出しています。また、Y君は図書館のカウンター近くにある新聞をいつも1時間近くかけて読んでいます。とはいえ、Y君は朝早くから閉館ギリギリまで図書館で勉強しているせいか、19時ごろに点検で図書館の中を見回りと机の上で寝ていることもしばしば。そして、あまりに図書館で熱心に勉強していたためか、勉強道具が入ったバッグを図書館に忘れて家に帰ったこともあります。そんなY君の、「教員」という自分の目標に向かって一生懸命努力し邁進する姿には脱帽します。Y君以外にも、夜遅くまで公務員試験や教員採用試験などに合格するため図書館を利用する学生が数多くいます。私はそういう方たちに、気持ちのよい図書館になるように心がけて、3年間仕事をしてきました。

私の図書館でのアルバイトはまもなくピリオドを打ちます。私は春から、自分が目標として

いた新聞記者として働き始めます。3年間の図書館でのアルバイト生活を振り返ると、夜遅くまで自分の目標に向かって努力している利用者の姿を見て、私自身が勇気付けられていたのかもしれない。

(きしべ ゆうき)

図書館でのアルバイトを通して

人文学部4年 山本 卓司



私は2～4年生の3年間、大学附属図書館でアルバイトをしてきました。具体的には2年生から3年生までは医学部保健学科分室、3年生から現在までは医学部分館でカウンター業務、また4年生の7月から約3ヶ月間本館で図書整理の仕事をさせていただきました。そして普段は本館の利用者であるということも含め、3ヶ所の図書館・図書室に関わることが出来ました。その中でカウンター業務を通して、私なりに感じたことを述べたいと思います。

私は3年間の医学部にある図書館でのアルバイトを通じて、自分自身が利用する方法以外にも図書館が果たしている機能があることを知りました。

図書館では静かな環境で勉強ができることや、勉強に必要な文献の入手・パソコンからの情報収集・新聞の閲覧といったさまざまな情報を得ることができます。私自身、本館を上記のことをするために利用してきました。同じ学部の知り合いという狭い範囲ですが、彼らも私と同様の利用の仕方だと話していました。そのため、上記以外に図書館ではどんなサービスがあるのかを、あまり理解していませんでした。

一方、自分が医学部分館でカウンター業務に就いて、利用者の方の対応をしていると自分や周りの人とは利用の仕方等が異なる（もちろん主に医学に関する図書を扱っているのも、それが異なってくるのは当然なのですが）ことを感じました。特にそれまで自分が知らなかった、文献複写というサービスを利用される学生や先生が結構多いということで違いを感じるようになりました。これは入手したい文献が所蔵していない場合、他大学等から必要なページを複写して取り寄せるものですが、医学部分館でアルバイトをしていると私が勤務の時はほとんど毎回、このサービスを利用される方がいらっしゃいます。もちろん本館にも同様のサービスがあることを後で知り、その意味では利用の仕方に違いはないと言えるのですが、利用者の方のうち文献複写をされる方の割合はHPの附属図書館概要を見ると、本館と比べて多いことがわかり

ます。医学部の学生や先生に加え、病院に勤務されている方等も利用されている点で、このこと一つをとっても、医療関係の方が情報を得る上で図書館は重要な機能を果たしていると感じました。

私が図書館を利用するのは前述の通り、主に必要な文献を探す・パソコンで論文を作成する・資格の勉強をするといった時で、それまで知らなかった図書館の果たす機能をアルバイトの仕事を通じて一部ではありますが、知ることが出来ました。今回はいくつかある中で、文献の複写が私の中で印象的だったので述べさせていただきました。

今後附属図書館がどのように変わっていくか分かりませんが、これからも利用者の方に必要な機能を果たしていくことを願っています。

(やまもと たくじ)

学びの場としての図書館

人文学部 4年 岩崎 純愛



私は、保健学科分室の学生アルバイトをして3年になります。アルバイトの勤務時間は、17時から20時までの延長開室時間です。

アルバイトではおもに受付カウンターの業務を行なっています。わずかではありますが、アルバイトを通して見た保健学科分室の様子を紹介したいと思います。図書室の利用者はほとんどが本学の学生ですが、他大学の学生や一般の方、病院勤務の方もみられます。身分を問わず、多くの方が学ぶために図書室を利用しています。図書室内には閲覧席があり、そこで勉強や読書をすることができます。室内にはさまざまな利用者がみられます。閲覧席の机で勉強をしている人、書架で探し物をしている人、勉強に疲れたのか机に顔を伏せて眠っている人等です。試験期間中は、早足の学生が頻繁に図書室に出入りし、室内の閲覧席はほぼ満席状態になります。また、閉室時間ぎりぎりまで机の上に何冊ものノートを広げて勉強している人が多くみられます。熱心な室内の雰囲気触発されて、私も勉強しようという気持ちになります。

私事ですが、私は本館の図書館をよく利用します。特に利用するのは旧書庫で、授業で必要な本や発表に使用する本を探したり、面白そうな本を手にとって立ち読みしたりします。本1冊には多くの情報が記されています。それが図書館に所蔵されている図書全体となると、その情報量は膨大です。その中から、自分が欲しい情報が書かれている本を「発掘」したときは、

喜びで胸がいっぱいになります。また、それまで気にも留めていなかった事が、何気なく手にとって読んだ本から急に興味を抱くようになり、その分野の本を何冊も読み漁ったということもありました。図書館を利用する人は、誰でもこのような体験をしたことがあるのではないかと思います。

図書館は、学びたいという意思を持つ人が自らすすんで足を運ぶ場所です。静かな環境で勉強したいという方はもちろんですが、何かを知りたい、学びたいと思った方はどうぞ図書館にいらしてください。そしてぜひ自分の手で図書を「発掘」してみてください。

(いwasaki よしえ)

☆医学部分館 カラーコピー機導入のお知らせ☆

医学部分館でカラーコピー機を導入しました。平成20年4月1日より下記の料金でカラーコピーを受け付けますので、どうぞご利用ください。(図書館資料の複写のみ)

区分	カラーコピー料金
学内者(校費・私費ともに)	40円
学外者、図書館間ILL	70円
セルフコピー(校費のみ)	35円

※ 私費用セルフコピー機(生協設置)は今まで通りモノクロコピーしかできません。ご了承ください。

